

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入社時に理念の説明を行う。ボランティアさん、民生委員のご協力で地域交流や地域の行事へ積極的に参加を心掛けています。ミーティングの中で読み合わせをしている。	運営理念「一人一人の人生が輝くように！」について施設長は申し送り時に強調して利用者の介護に当たるように職員に伝えています。月1回のミーティングにも理念について話し合いをしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	月1回のサロンに呼んでいただいたり、事業所行事に来ていただいたりしていた。現在は感染症予防のため中止しており、施設の周りの散歩、花見で顔を合わせるくらいです。	今までは民生委員が中心になって開催される「てのひらの会」等に参加したり地域を散歩して声を掛け合っていたが感染症予防のために外出が出来なくなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナ禍以前は地域との交流を重んじ福祉の集まりなども積極的に参加できていた。現状、高齢者の身を守ることに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	緊急事態宣言にて、現状やむを得ず中止している。	ほとんどの家族や利用者・行政・地域の代表等で行われていた運営推進会議は感染症予防のため現在は行われていません。	運営推進会議が開催できない中、文書で伝えられることについては内容を郵送し、意見を求めたり新たな意見を寄せてもらう等工夫して委員とのつながりを保つことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議で施設としての取組みなどを認識していただいているが、今は会議を中止している。	通常は運営推進会議等で連携していたが会議が開けないので必要に応じて役場に向向いて話し合っています。施設の空き情報は常に伝えています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の指針をご家族様に配布し、利用者様の安全を見守る介護を目指している。	身体的拘束等の適正化が改定されて直ちに条文を作成しました。「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」についても研修をしています。家族には写真等を使って理解してもらっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	スタッフミーティングにて、小さな気づきを大切にし、ケアする側のモラルを話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会(ミーティング)で職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	お互いの信頼関係づくりに重点をおいており密に報告連絡相談する事で、クレームやトラブルなどマイナス面の防止にもつなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	会議など特別な日以外にも、いつでも意見や要望など発せられるよう施設側から家族へ働きかけている。また意見も浸透し、反映できる運営を行っている。	受診は家族に付き添ってもらうのでその機会を利用して意見を聞いています。月1回の個別のお便りでも返信いただき意見を寄せてくれます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1回/月ミーティングの場で各職員の意見や要望、提案を話し合いの中で取り入れている。又緊急ミーティングなども開催している。	社長との面会が年1回あり、意見や提案を聞く機会になっています。毎日の申し送り時、月1回のミーティング等に職員の意見を聞き話し合い、運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境であり、各職員の希望なども反映しプライベートも有意義に過ごせる勤務状況を作ってくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍でなければ施設側も研修への参加を勧め、スキルアップも図れるが、現状社内研修(ミーティング)を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	松川町近郊の施設に通知物などをやりとりする際に交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者様の発する言葉にしっかり傾聴したいと思う。じっくり聞くことで関わりを大切にしたいと思う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様の大事な家族をお預かりしているのを念頭に置き、不安要素を可能な限り受け入れ、ご家族様、ご利用者様とも信頼関係の維持に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご利用者様、ご家族様の希望を考慮してそこに到達できるベストな支援を心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「人生の先輩であり、大切な存在である」ご利用者様と一緒に時間を共にしていくと同時に我が家のような雰囲気を感じていただけるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者様、ご家族様と良好な関係を築けるよう、ご利用状況の送付、常に連絡をするように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの場所や物など大切にご利用者様との会話の話題に取り入れている。	施設に訪問理・美容の機会はあるが馴染みの美容室へ家族が付き添って行く利用者もいます。感染症予防のため馴染みの場所へ行けませんが会話や歌などを通じて馴染みの場所について話しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係も良好である。トラブルなく孤立せず一緒に何かを行ったりできる支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご利用終了後もボロ布を持参してくれたり野菜を持参してくれたり、気軽に足を運んでもらい、継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の希望を第一に支援に努めている。ご本人との話し合い、困難な場合はご家族様とも話し合っ共有し、努力している。	日々の支援の会話の中で思いや意向を確かめています。利用者や家族の電話、家族との連携で思いを受け止めたり判断しています。把握が難しいときは表情等で本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご利用者様各自の個人記録を作成している。その中に本人の情報が全て入っているため職員全員が把握出来る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出勤後申し送り事項、夜勤の様子を把握し、ご利用者様全員の心身状態などを確認して支援に入るように徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人様、ご家族様の希望や意向に伴い、現状に即した介護計画、必要に応じたケアを行っている。日々の変化など職員全員で話し合っている。	運営理念を念頭に置き日常生活の中から利用者の得意分野を見極め利用者や話しながら、家族の意見を聞いて介護計画を作成します。モニタリングも定期的に行い、より得意な部分が発揮されるように支援しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	急激な変化のない生活の中でのケアの統一を図り、毎日のケアでの気づきや工夫を共有しながら実践や見直しを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様ご家族様の現状のニーズに可能な限りのサービスを提供させて頂くよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアや地域の方々の協力を得て支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様とご家族様の希望するかかりつけ医にしているが、大半の方が事業所の協力医療機関にかかっている。基本的には付き添いはご家族様となっている。歯科の往診があったり協力医療機関との関係も良好である。	利用者・家族の希望でかかりつけ医を決めています。受診は家族が中心になって付き添って行き、様子を施設に知らせてもらいます。往診してくれるかかりつけ医もいます。歯科は訪問診療を利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りで職員全員にご利用者様の情報や異変を共有し、速やかに管理者に報告して指示に従っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院中であっても職員や他の利用者様とお見舞いに行ったりして状況把握できていたが、現状面会できなくなり、病院の担当者から定期的に状況報告を受けていた。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期の対応についてはご家族様と十分に話し合い、希望に沿った支援ができる体制となっている。終末期についてはご家族様の気持ちも揺れ動くので、その思いに応えるよう対応している。	終末期は家族と充分に話し合いをします。最近では家族の希望で病院で看取られる利用者が多く施設では看取りはしていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	管理者の指示に従い、報告・連絡・相談を怠らないようにして備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害に備え、地域の防災訓練にも参加すると共に、火災対策など万全に行っています。	スプリンクラーを備え火災対策は行いません。地域の防災訓練に参加しています。	想定外の災害が多い昨今、施設独自で災害別の防災訓練、夜間想定訓練を実施することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩であることを肝に銘じ、呼びかけ時「さん」付けの徹底や言葉遣いに注意し対応している。	行動指針や倫理綱領を整備し入職時に人格の尊重・プライバシーについて研修をします。特に言葉かけについては「言葉遣いの適正化に関する評価基準」の資料で研修をし利用者に対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご利用者様の思いや希望を尊重できる場があるよう、日常から職員との信頼関係を構築している。利用者様の希望に沿う支援の働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は利用者様の都合に合わせていくために時間に追われず、見守りを強化し、希望に沿って支援に入れる体制をとっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服のコーディネートはその方の好みを尊重し選んで頂くようにもしている。身だしなみで髪型をきちんとケアすることだけでも笑顔を見せてくれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る事はご利用者様にやって頂くことをモットーに月3度の食事作りを行い、利用者様と職員とで献立から会食までを楽しんでいる。食器拭きは利用者様にお願いしている。	食事は委託の部分もあるが食べ易いように施設でも調理しています。月に数回、利用者が参加しやすい献立で利用者中心に食事作りを楽しんでいます。おやつは手作りで利用者も楽しんで参加しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事面はカロリー、栄養バランスも完璧に管理されているので、その他ではご当地の食べ物や季節の物を作ったり、お茶うけなどを食べていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	習慣になっているが、一人ひとりに声掛けだけでなく付き添い、仕上げ磨きなど口腔内の清潔に留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	ご利用者様の日々の変化の中でご本人がどうしたいかを最優先に考え、排泄記録を行い、情報を共有し誘導時間を考慮している。	細かい排泄チェック表を付け個人の排泄のパターンをつかみ日中は声掛けをして見守り、支援しています。個人個人のパットやおむつを職員で検討し、着け心地、価格等にも配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表も職員間で申し送りをし、便秘の方への水分補給やお茶うけなどの工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	一人ひとりの入浴支援は違っているが、その日の体調や本人の思い、希望も聞き、強制的にならないように努めている。	入浴の日は一人ひとりに声掛けをし体調を確認し、浴室への案内から着衣して自室に戻るまで1対1の対応をしています。体調不良や、体力を考慮して機械浴、清拭での支援もしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	消灯時間等は一旦の目安として設けていますが、あくまでも入眠も昼寝も個々のペースが基本と考え、どんな状況にも対応できるよう、24時間支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	受診報告の共有の他、ミーティングの場での再確認と薬による症状の変化などのディスカッションを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	月に3回程度行われる食事会で、ご利用者様の希望を取り入れ献立を作り、皆で料理し食べる事で特別感やイベント感を出し、楽しみの一つにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候やご本人の体調を見て希望があれば散歩や外出の機会を作ったり、外出が困難な方はバルコニーを利用したりと外気に浴びるよう工夫している。	感染症予防のため外出支援はほとんどできませんでしたが。ベランダで草花の手入れをしたり、野菜を栽培しました。外気に触れることを大事にしています。暖かくなったら施設の前の神社へ外出できるか計画中です。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現状ではご利用者様はお金を所持しておられません。グループホームの会計のお菓子代などで、一緒に買い物へ行き購入する支援をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	遠方のご家族様から時々電話を頂いたり、ハガキで現状を知らせてくれたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じやすい作品づくりはテーマを決めて行い、飾る事で季節を理解して頂けるようにしている。居心地などを考え、共有空間にも身近な物を置くなどして家のような生活感のある空間づくりの工夫をしている。	玄関に桜の花や利用者が育てたシクラメンが飾られ季節の移ろいを感じる心地よい空間になっています。居間には大きな日めくりを配置し、廊下は利用者・職員作の手工芸品が作品として飾られ落ち着いた雰囲気醸し居心地の良さを感じさせます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室とホールで、自室と居間的な区別をつけ、好きな時間に好きな事をし、十分な空間を持つ事で車椅子でも移動しやすく、利用者様同士のコミュニケーションを作りやすい工夫をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は利用者のプライベート空間である。ご利用者様によってお部屋に私物やベッドなど自由に配置し、居心地良く過ごせるよう工夫しています。	写真・絵画等、家から持ってきた物が飾られ好きな時にみんなと一緒に活動したり自由に部屋で過ごしたり出来るゆったりとした居室になっています。安全な見守り・支援が出来るようにベッドの位置を工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立した生活が送れるよう転倒防止や事故予防に危険物を排除し、生活の中での安全面は全員が理解し工夫して取り組んでいる		